

2018年

3月号No. 86

毎月6日発行



原水協通信 (茨城版)

原水爆禁止茨城県協議会 〒310-0912 茨城県水戸市見川5-127-281 茨城平和会館内
TEL/FAX 029-251-9919 e-mail antiatom-i@email.plala.or.jp 会長 加藤 岑生

原水協通信
頒価¥220/月

核兵器廃絶署名
32,607筆
(18.3/5)

核兵器の非人道性を強く訴え、連帯を：

2018年ビキニデーに参加して、一番印象に残った内容は、マーシャル諸島のエニウェトク環礁で、核実験の被害について報告したエニウェトク環礁NGOのブルック・タカラ氏の発言です。現地では、水爆の爆心クレーターをコンクリートで埋めたルニットドームがあり、米国から居住安全宣言を出されているが、依然放射線が高く住民に死産や脳卒中などの被害が広がっています。農作物や海産物は汚染されています。米国から食料支援があるが、古い米や害虫がわいた小麦など品質が悪く、米国の支援で建てた住宅は放射能で汚染されたコンクリートを使用しているの



左端から小林さん、加藤会長、花沢夫妻

そこで一年間生活すると米国の1年間の安全基準を超えるなど、非常に厳しい状況です。またガイガーカウンターなどの測定機器なども不足している為に汚染の状況を確認できず、一刻も早い支援が求められています。

この発言を聞いて、私は核兵器の被害に苦しむのは日本だけではなく、世界中にもいる。もっと連帯して核兵器の非人道性をアピールできたらいい、と思いました。そしてこの連帯こそが、非核化を成し遂げる最も確実な道だと感じました。国連で核兵器禁止条約が採択されて最初のビキニデーでしたが、核廃絶への新たな希望がある一方、アメリカは核兵器を手放そうとしません。日本政府もこれに追随しています。このことには私も非常に憤りを感じています。これから多くの人たちに核兵器の非人道性を広めて国民的運動を起せば、日本政府の姿勢は変えられると思います。
(民青同盟・小林秋民)

3.1
ビキニデーを
力に署名をさら



2017年7月7日に採択され、9月20日に調印・批准が開放された核兵器禁止条約。1月30日にキューバの批准書が国連事務総長に寄託され、ガイアナ、タイ、バチカン、メキシコに続く5カ国目となりました。56カ国が調印しています。核兵器禁止条約は、批准した国が50

か国に達してから90日後に発効します。HOW IS YOUR GOVERNMENT DOING?



↓
訳あなたの政府はどのようにしていますか？
(ICANサイトから)



① 「日本政府に国連・核兵器禁止条約への署名と批准を求める意見書採択の請願」を県議会に提出します。

県議会において多くの県民の願いである核兵器廃絶の実現のために意見書採択の請願をします。25団体の賛同得ていますが更に多くの団体の賛同を集め、6月県議会に請願します。ご協力ください。

②3月22日(木) 14:00~16:00 第2回原水協理事会の開催
場所：みと文化交流プラザ1階101会議室
議題：ビキニ集会についてなど

③5月26日(土) 13:30~15:00原水協総会
場所：石岡市民会館1階第1会議室
記念講演：川田忠明さん(日本原水協常任理事)

※ 国民平和進行のコース実行委員会を3月末迄に開いて下さい。
コース責任者、コース日程、コース内の役割分担(指揮者、運転手、記録係など)
自治体訪問の日程と分担、平和行政の要請内容など。
世界大会への参加者を4月中に決め、登録して下さい。

核兵器禁止条約に調印した国々 (1月30日現在)

アルジェリア、オーストリア、バングラデシュ、ブラジル、カーボベルデ、中央アフリカ共和国、チリ、コモロ、コンゴ、コスタリカ、コートジボワール、**キューバ**、コンゴ民主共和国、エクアドル、エルサルバドル、フィジー、ガンビア、ガーナ、グアテマラ、**ガイアナ**、**バチカン市国**、ホンジュラス、インドネシア、アイルランド、キリバス、ラオス、リビア、リヒテンシュタイン、マダガスカル、マラウイ、マレーシア、**メキシコ**、ネパール、ニュージーランド、ニカラグア、ナイジェリア、パラオ、パナマ、パラグアイ、ペルー、フィリピン、サモア、サンマリノ、サントメ・プリンシペ、南アフリカ、パレスチナ、**タイ**、トーゴ、ツバル、ウルグアイ、ヴァヌアツ、ベネズエラ、ベトナム、ジャマイカ、セントビンセント及びグレナディーン諸島、ナミビア

※ **太字ゴシック**は批准国



撮影：柳岡 鶯の初鳴きを聴きました。(柳)

私に、写真の木と共に、オレンジ色の花の木もありました。寒さが続きますが、

蠟梅(ロウバイ)
中国原産の落葉低木。中国では梅、水仙、椿とともに「雪中の四花」と、尊ばれています。ちょうど今頃、その名の通りロウのような光沢で、英語では(Winter sweet)と呼ばれる香り高い花を咲かせます。

日本では、晩冬から立春前までの季語とされます。

「核のない未来賞」を受賞 梅林 宏道さん (80)

日本、韓国、北朝鮮から核兵器をなくし、米国、ロシア、中国が周辺核兵器国として地域の安全を支える。そうした国際法上の制度「北東アジア非核兵器地帯」の構想を1996年から地道に訴え続けるなどして、ドイツの「核のない未来賞財団」から問題解決部門賞を受けた。

科学技術者として歩み始めたが「日本の技術が米国の武器に使われること」に疑問を抱いた。転身し、起業しようと入手した土地の近くに米軍相模総合補給廠(しょう)があった。壊れた戦車がそこで補修され戦地に送り返されていた。72年から、反基地の市民運動を始めた。

米軍の核巡航ミサイル・トマホークの配備を機に「基地と核」は主要なテーマになる。国際的なネットワークを構築。その間、米国の情報公開制度を使い在日米軍の実態をあぶり出した。98年には平和のためのシンクタンク「ピースデポ」を設立し、イラクで戦闘活動を行う米軍艦船への自衛隊の給油問題を徹底追求した。

今年、核兵器禁止条約が国連で採択され、大きな役割を果たした国際NGOネットワークのノーベル平和賞受賞が決まった。

「運動に元気を与えたことは確かだが、実質的にはどうか」。懸念はある。日米首脳は圧力一辺倒だ。一方、15年ほど顧みられなかった「北東アジア非核兵器地帯」構想だが、米政府高官の目に留まり、自身が各国との連携を推進し「前進している」という手応えを持つ。

長崎大に核兵器廃絶研究センターが創設され、初代センター長に。授賞式では「光栄だが、ためらいも私の努力が効果的であれば、朝鮮半島は今のようになっているいなかった。」(参考：毎日・東京新聞)

梅林宏道氏は、昨年11月18日の茨城県弁護士会水戸でのシンポジウムで講演されました。



梅林 宏道さん



左の写真は、折り鶴で作られた「ICAN」と、ロゴマークを手にするICANの事務局長・ベアトリス・フィンさん。(広島市中区で)

編集後記

日本政府をはじめとする「核抑止論者」は、「北」の核ミサイル攻撃に対し、本気で迎撃できているのだろうか。安倍首相の「対話否定論」は、真っ直ぐに「憲法改悪」⇒「戦争」への道へと通じる。「日本の核保有国化」「徴兵制」を視野に入れているのだろう。9条は、ルール違反の閣議決定で事実上踏みにじられた。必要とあれば、過去に議論もなかった「徴兵制」も「苦役」でない、とすれば政権の思うがままに運用できるのではないだろうか。

1月13日、「『北』からハワイに向けて核ミサイルが発射された」との情報が流れた。米政府が誤報と気づかぬままに行動していたらと思うとゾッとす。私たちは、彼らと一蓮托生の運命共同体ではない。

全人類の安全は、「核兵器廃絶」以外にないことを改めて強く意識させられた。(柳)

世界終末時計 人類の滅亡まで残り2分

「世界終末時計」ってご存知でしょうか。地球滅亡の時間を午前0時として、地球最後までの時間を示す時計なんです。今朝30秒針が進められて、残り2分になってしまいました。かつてアメリカとソビエト両国が水素爆弾の実験をした1953年に針が進められて、今回と同じ残り2分まで迫ったことがあります、それ以来の人類滅亡ギリギリタイムです。

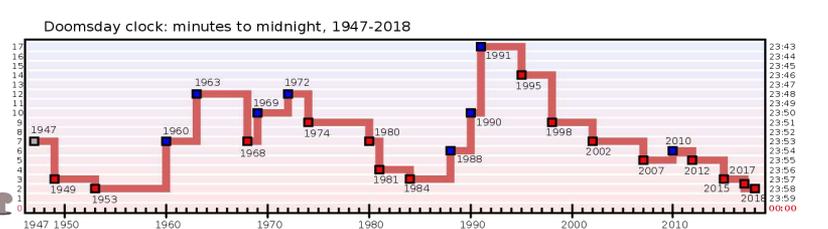
世界終末時計は、アメリカの科学誌「The Bulletin of the Atomic Scientists」が1947年に核戦争の脅威を警告するために作ったもの。針は情勢によって進んだり、戻ったりします。去年も残り3分だったのが針が進み、地球滅亡まで2.5分になった



んです。これまでで世界滅亡まで1番時間があつたのは1991年。冷戦の終わりで17分も針が戻されました。なのに、2018年は1953年にならんで世界滅亡まで最短時間記録です。

何人かの専門家は、2018年は冷戦の時よりも危険な状態であるとのこと。「危険とその即時性を過小評価することは悲惨な核の状況を生むことになる。北朝鮮の核兵器計画は2017年に現れ、その周辺の国やアメリカへのリスクを高めている。」とKrauss議長はワシントンポスト紙に話しています。今回針が30秒進んだ理由としては、トランプ大統領のツイート、ロシアに対するアメリカの核の姿勢、北朝鮮、イランなどの核兵器問題などが挙げられています。核兵器廃絶国際キャンペーン

(ICAN)のBeatrice Fihn氏は「意図するのもしないのもの、とにかくこれまではラッキーでやってこられました。ハワイでの弾道ミサイルが発射されたとする避難警報もありましたし、日本は早く行動しないとそのラッキーも尽きてしまうと考えていますしね。」と話しています。



終末時計の変遷 (折れ線が、最下線に付くと「終末」)



ローマ法王フランシスコが印刷して広めるよう指示した「焼き場に立つ少年」の写真＝バチカン提供・共同

長崎の被爆写真 配布を ローマ法王、核廃絶呼び掛け【ローマ＝共同】

フランシスコ・ローマ法王は、原爆投下後の長崎で撮影された「焼き場に立つ少年」の写真をカードに印刷し、「戦争が生み出したもの」との言葉を付けて広めるよう指示した。ローマ法王庁(バチカン)が一日までに発表した。法王はこれまでも核兵器廃絶を呼び掛けており、改めて平和を訴えた。

カードの裏面で、亡くなった弟を背負った少年が火葬場で順番を待っているところだと説明。法王の署名とともに「かみしめて血のにじんだ唇により悲しみが表現されている」と記載されている。

写真は一九四五年に長崎で原爆が投下された後、米軍の従軍カメラマン、故ジョー・オダネルさんが撮影した。

ローマ法王フランシスコが印刷して広めるよう指示した「焼き場に立つ少年」の写真＝バチカン提供・共同(東京新聞より)